

与井の洞門

(バス車内での説明：与位の洞門付近)

森本委員 これが与位の洞門といいまして、山崎の名所の1つになっております。今見ていただきますとよく分かりますように、岩のところずっと穴があいてますね。あの穴のところに木を突き刺しまして、その上を歩いて渡りました。ここの部落は与位の部落といいますが、与位は非常に山が多いところで、与位の山は七百町歩と言います、七百町歩の山があります。田んぼはあまり多くありませんが、山の多いところですよ。

揖保川では、流れが曲がりましたら、必ずそこには深いところがあります。ここもそういうところですよ。岩に突き刺した木の上を通るのは非常に不便ですので、明治27~28年の日清戦争のあとで火薬がたくさん余ったんでしょうか、30年代になりまして、小さい穴を開けます。それで人が通れるようになりました。昭和になりまして穴を広げました。けれども与位の人たちがバスに乗ろうと思ったら、結局その田井の橋まで出なければなりませんので、だんだんこのトンネルを広げてきました。現在では向こうの山を抜き、トンネルを作るという計画があります。

それから、そこに井ヶ瀬橋という橋があります。井ヶ瀬橋という橋は今まで流されたことがない橋なんです。一番大きな台風は100年に1度の台風だと思うんですが、昭和20年9月18日の枕崎台風。私は九州におりまして遭っておりますので絶対に忘れませんが、その時にこの橋は頑張ったんです。橋が頑張ったら、その水はどこかに逃げなくてはならない。だからこちら側を流れました。ここに家がありますが、この家は全部流れてしまいました。橋は流れないといけないものだと思います。流れないようにしようと思ったら、よほど大きな橋にしないといけません。